どうして、本校の住所は雫石町**西**安庭となっているのか

明治初年まで盛岡、雫石の双方に阿庭（安庭）村がありましたが、明治 3 年の三陸会議において協定された「郡村規則」によって、それぞれ「東安庭村（現在・北上川に架かる南大橋の東側・ジョイス本店周辺）」と「西安庭村」とに区別され、同 4 年から実施されました。

西安庭村の名称は明治 22 年に「御所村」となるまで続きました。

●なお、「三陸会議」とは次のようなものでした。（滝沢村誌より）

三陸地方（陸前・陸中・陸奥の三国で、現在の宮城・岩手・青森の三県をいう）には、明治 2 年に新しく藩県の創置されたものがあり、管内は互いに錯綜し施設の混乱も甚だしく、あるいは旧慣に従うものがあるかと思えば、あるいは新制を実施するもの等があり、民政の種々雑多なることは、実に無統制極まる状態であった。

ここにおいて、民部省から指導官が来り臨み、涌谷町の登米県庁において四県（盛岡・胆沢・江刺・登米）、二藩（仙台・一関）の高官が参集して「三陸会議」が開催されることになった。会議は明治 3 年 11 月 13 日から 17 日まで続行されたが、その内容は左記の 16 件であった。すなわち、（1）明治 4 年からの検地を実施すること（2）来年から総検見を行うこと（3）年貢米を回漕する船のこと（4）石巻商社を三陸商社と改名すること（5）備荒倉を建てること（6）育子の法（7）郡村の規則（8）訴獄の規則（9）出納の規則【以下略】

（出典…滴石史談会報 第 19 号）